【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和４年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	佐賀市立中川副小学校

1　前年度 評価結果の概要	・全体的に基礎学力は定着しつつあるが、「書く活動」「話し合う活動」を軸とした授業改善を行い、更なる学力向上を目指していきたい。 ・志を高める教育では、「佐野常民先生の生誕地」であることを誇りに思い、志高く夢を語れる児童を育てていくために、児童自身が自ら考え、表現できる学習の場を設定していきたい。 ・ボランティア活動や地域との交流活動については、コロナ禍の中で規模を縮小しながらも計画的に行うことができた。次年度は、一つ一つの活動に主体性をもって取り組むことができる児童の育成を目指していきたい。 ・働き方改革については、「改革を進める上でのポイント」について研修会をもち、再度、全職員で共通理解を図りたい。
2　学校教育目標	**気づき、考え、実行する子どもの育成** **～博愛の里 伸びゆくわれら 中小っ子～**
3　本年度の重点目標	**1．わかる授業・魅力ある授業づくり（ＩＣＴ利活用の充実・体験的な学習の充実・郷土学習の充実等）を行う。** **算数科を中心として「他者と協働しながら主体的に学び続ける児童の育成」について研究を行う。** **2．ボランティア活動や地域との交流活動を通して、自己肯定感や有用感を培い、夢や自分の意見を人前でも堂々と自己表現できる児童を育てる。**

4　重点取組内容・成果指標　　**中間評価**　　**5　最終評価**

(1)共通評価項目

評価項目	重点取組 取組内容	重点取組 成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価 進捗度 （評価）	中間評価 進捗状況と見通し	最終評価 達成度 （評価）	最終評価 実施結果	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 意見や提言	主な担当者
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	A	・話し合う活動を積極的に設定している職員は90%以上であった。一方、10月に実施した学習アンケート調査で「自分の考えをもつことができた」と回答した児童が約82%、「その考えを進んで伝えることができた」と回答した児童は約75%であり、自信をもって自分の考えを伝える児童が増えてきた。	A	・研究授業をはじめ、どの教科においても話し合う活動を積極的に設定している。その結果、2月に実施した学習アンケート調査で「自分の考えをもつことができた」と回答した児童が約93%、「その考えを進んで伝えることができた」と回答した児童は約84%であり、自信をもって自分の考えを伝える児童が増えてきた。 ・マイプランの成果指標を達成できたと自己申告する教師は100%。	A	・自分の言葉で人・相手に伝えることは最も大切なことだと思います。児童の個性はあれども、少しづつ言葉を引き出すサポートをお願いします。よく指導されていると思います。 ・どの学年も真面目な落ち着いた学習態度が見られた。先生の指示をしっかりと聞き、ノートの記述がよく整理されていた。友達と学び合う場が設定されたことで、年々伝え合う力が伸びてきていると思う。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○（学校独自重点取組・任意） 他者と協働しながら主体的に学び続ける児童を育成するための授業実践	○「めざす児童像」（話す、聞く）の到達度80%以上。 ○学力学習状況調査で県平均以上。	・「めざす児童像」（話す、聞く）を用いた評価規準を設定し，指導と評価の一体化を図る。また，全職員による研究授業等を通して，授業力の向上を図る。	B	・系統性を意識した「めざす児童像」の設定は全学年できており，指導と評価の一体化に活かしている。めざす児童像の達成率は話す45%，聞く58%であった。校内研の際に話題に挙げ，共通認識をもって指導に取り組んでいく。	B	・全職員による研究授業を行い，授業力向上を図ることができた。 ・「めざす児童の姿」の達成率は，話す67%，聞く73%であり，年度当初に比べ伸びが見られた。80%以上の目標は達成できなかった。 ・県学習状況調査の目標である県平均以上に達した学年，教科は半数程度であった。	B	・目指す児童像の達成は、もちろん、一朝一夕にはいかないと思いますが、継続して取り組んでください。 ・1，3，5年は、一学年進級した児童たちの成長が楽しみです。 ・今年も教室だけでなく廊下の壁面にもたくさんの学習の足跡がきちんと整理されていた。先生からの一言コメントがあることで児童の学習意欲が高まっていると思う。年々児童数が減少してきているが、少人数でよりきめ細かな指導がなされることを願っている。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○ボランティア活動を通して「気づき・考え・実行する」という学校目標を行動化させ、「できた」といえる児童を80%以上	・毎学期VS週間を実施し、美化活動、ごみ拾い、花壇の花の管理を日常化させる。 ・地域との関わりや学級の取組を通して、地域、学校、学級のために役に立っているという自己肯定感を高めていく。	A	・ボランティア活動を通して「気づき・考え・実行する」ことが「できた」と回答した児童は92%。 ・毎週担当学年で縦割り花壇のお世話を実施している。 ・「気づき、考え、実行する」ことができている児童にスターシールを渡し、自己肯定感や自主性を高める取り組みを全教員で行っている。	A	・2月に実施したアンケート調査で、ボランティア活動を通して、「気づき・考え・実行する」ことが「できた」と回答した児童は、92%。目標を設定し、しっかりと取り組んでいる姿が見られた。	A	・さすが、「博愛」の里の中川副小学校の児童です。意欲的に取り組んでいる児童の姿が目に浮かびます。 ・素晴らしいです。 ・花壇お花がきれいに咲いているのは、日頃の児童たちのお世話であると思う。学校内にゴミ一つ落ちていないのも児童たちの協力し合う清掃活動のおかげである。友達と役立つボランティア活動に前向きに取り組んでいるのが伝わってきた。	・ボランティア担当 ・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○月初めの「いじめ・いのちを考える」アンケートの活用と学期ごとの教育相談週間を通しての実態把握ができていると回答した教員80%以上	・月初めの「いじめ・いのちを考える」アンケートの活用と学期ごとの教育相談週間を通しての実態把握。	A	・月初めの「いじめ・いのちを考える」アンケートの活用や月1回の生徒支援会議を通して実態把握ができていると回答した教員は100%以上。気になる児童に対しては、管理職に相談し早期に対応できている。	A	・心のアンケートや生徒支援会議を通して、十分な児童の実態把握ができ、気になる児童に対しては管理職に相談し早期に対応できた。年間で大きなトラブルもなく全体として落ち着いて過ごすことができた。	A	・100%以上？という数値には、疑問がありますが、教師の児童理解が尋常ではないくらい徹底していると認識しました。 ・具体的な事例が発生した場合、ホームルーム等で児童が一緒考える機会も持ってほしい。 アンケートを基に日々の児童一人一人に目配りのできた支援ができていると思う。学校の早期対応で児童は安心して学校生活ができていると思う。	・人権・同和教育担当 ・教育相談担当
	◎「博愛の里子どもづくり」の推進	○佐野常民生誕の地に生まれ育ったことを誇りに思う児童を90%以上にし、夢をもって自分を語れる児童を80%以上	・下学年については、佐野祭への参加や取組、上学年においては、社会科や総合的な学習で佐野常民の偉業を知り、自分の生活に生かしていく。	B	・「佐野常民生誕の地に生まれ育ったことを誇りに思う」と回答した児童は93%。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童79%。	A	・佐野常民生誕の地に生まれ育ったことを誇りに思うと回答した児童は91%。 ・6年生が、佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館でボランティアガイドを行った。また、3年生が中川副公民館で地域の方と三重津かるた大会を行い、交流を深めた。	A	・佐野翁関連につきましては、「100%の誇り」になるように、取り組みを強化して欲しい。 ・博愛の精神と共に郷土愛をもつ子供たちに成長してほしい。よく指導していただいていると思います。 ・小学校で佐野常民先生をはじめとして、三重津かるた等、郷土「中川副」の歴史の一部を教材として取り上げてくださることを有り難く思う。平和教育として地元の方の戦争の体験談を取り上げてくださったのも有り難かった。	・ボランティア担当 ・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当
●健康・体つくり	次の中から1つ以上を選択 ❶「運動習慣の改善や定着化」 ❷「望ましい生活習慣の形成」 ❸「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ❹「安全に関する資質・能力の育成」	❶授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童60%以上 ❷「家庭学習頑張ろう週間」で各学年の目標就寝時間を7日間達成できた児童を70%以上 ❸「健康に食事は大切である」と考える児童80%以上	①健康委員会がなわとび大会や中っ子オリンピックを計画・運営することにより、児童の意欲を高める。 ②保健・家庭科・特活の時間等を活用し、十分な睡眠・早起きが生活リズムをつくり、健康にいいことを理解させる。 ③給食指導の時間帯に、偏りのない食事が体に良いことを理解させる。	B	❶授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童43%。 ❷「家庭学習頑張ろう週間」で各学年の目標就寝時間を7日間達成できた児童は50%。保健通信で達成状況を伝え、就寝時間・睡眠時間を意識して生活できるようにする。 ❸「健康に食事は大切である」と回答した児童は94%。	B	❶授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童が2学期の調査では43%、3学期では31%と寒さもあって減少している。天候も考えながらも、なわとびなどの外遊びを奨励し、これからも指導を続けていく必要がある。 ❷「家庭学習頑張ろう週間」で各学年の目標就寝時間を7日間達成できた児童は1学期、2学期共に50%。保健通信で睡眠に関する健康情報を発信したり、ショートの保健指導を行ったりするなど、これからも指導を続けていく必要がある。 ❸「健康に食事は大切である」と回答した児童は97.2%。	B	・❶も大切ではありますが、それよりも❷の早期のテコ入れをよろしくお願いいたします。健康に食事は大切…がわかっているのであれば、睡眠も大事だという事を熱く伝えてください。 ・ゲーム・インターネットなどの時間が睡眠の時間を妨げてないか、家庭内でのルールを設けているかなどの情報も欲しいです。 ・以前から外で元気に遊ぶ児童が多いのは中っ子の良さであり、心身共に健やかな成長を育んでいると思う。	・体育主任 ・食育教育担当 ・安全教育担当 ・保健指導担当 ・各学年
	○（学校独自重点取組・任意）	○（学校独自成果指標・任意）	・		・		・		・	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・金曜日にリフレッシュデー（定時退勤日）を設定する。 ・退勤時刻自己申請表を活用する。	A	・全職員の時間外勤務時間の平均30時間 ・退勤時刻自己申請表を活用し、時間外勤務時間を意識した働き方ができている。	A	・全職員の時間外勤務時間の平均（4月～2月）は約26．8時間であった。 ・金曜日のリフレッシュデー（定時退勤日）には17時30分までの退勤を促した。	A	・中間評価から3時間改善されていますので、Aで良いと思います。 ・努力の成果が出ていると思います	管理職
	○（学校独自重点取組・任意） 各自の業務精選とタイムマネジメント力の向上	○（学校独自成果指標・任意） 業務改善が進んだと回答した教師80%以上	・「働き方改革一人一提案」を募り、それを基に業務改善を図る。	A	・夏期休業中に「働き方改革一人一提案」についての研修を行い、改めて仕事の優先順位をつけ、効率的な働き方になるよう全職員で共通理解を図った。	A	・夏期休業中に研修会を2回実施。 ・年間を通して時間を意識して働いたと回答した教師　100%。 ・繁忙期を除きほとんどの職員が18：30までに退勤できた。	A	・「働き方改革一人一提案」で、個人個人がどのような提案をされたのか、その内容を知りたいですが、職員の時間に対する意識が100%ならば、文句なしのAです。 ・教職員の皆様もご家庭で過ごす時間を大切にしてもらいたい。 ・学校が多忙化しているなかで、先生方の共通理解ができ働き方改革が良い方向に進んでいると思う。先生方には、健康を第一に日々の業務に励んでほしいと思う。	管理職

(2)本年度重点的に取り組む項目評価項目

評価項目	重点取組 重点取組内容	重点取組 成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価 進捗度 （評価）	中間評価 進捗状況と見通し	最終評価 達成度 （評価）	最終評価 実施結果	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 意見や提言	主な担当者
○	○（学校独自重点取組・任意）	○（学校独自成果指標・任意）	・		・		・		・	
○	○（学校独自重点取組・任意）	○（学校独自成果指標・任意）	・		・		・		・	
○	○（学校独自重点取組・任意）	○（学校独自成果指標・任意）	・		・		・		・	

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・県学力状況調査では6年生のみが県平均値を超える結果であった。児童が「主体的・対話的」に取り組める学習展開と授業づくりを行い、要約力や表現力を育て、学力向上を目指したい。 ・新型コロナ感染症の影響で「運動習慣の改善や定着化」の取組が不十分であった。感染症等に気をつけながら、安心して運動や遊びに取り組める環境設定を行っていきたい。 ・「家庭学習がんばろう週間」では、目標の就寝時刻や睡眠時間が守れていない児童が半数近くいた。望ましい生活習慣を形成するために、保護者への啓発活動や児童への保健指導などの充実を一層図る。 ・働き方改革については、全職員が時間を意識して働くことができた。次年度も、研修会や情報交換会など行い、職員一人一人の意識をさらに高めていきたい。